

令和 7 年度(2025 年度) 事業報告

1. 総務部

2. 事業推進部

全体報告

【1】行政からの受託事業

- ①高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)藤岡
- ②高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)亀井
- ③香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)ルーツ
- ④香川県 ライフデザイン事業(ライフデザイン)亀井
- ⑤高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)藤岡
- ⑥香川県 女性が輝くリーダー養成事業(リーダー)佐々木
- ⑦高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)ルーツ
- ⑧香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)佐々木
- ⑨香川県 縁結び・子育て美容-eki(美容-eki)多田
- ⑩香川県 かがわ子育てステーションパワーアップ事業(ステーション)藤岡
- ⑪香川県 仕事と子育て両立体験事業(両立)亀井
- ⑫坂出市 子育てハンドブック改定事業(坂出ハンドブック)亀井
- ⑬香川県 女性デジタル人材育成事業(DX)藤岡

【2】自主事業

- ⑭子育て情報誌『おやこ DE わはは』 特別号多田
- ⑮わははファミリーフェスティバル(ファミフェス)佐々木
- ⑯子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業(らっこ広告)多田
- ⑰香川銀行育休者ミーティング(香川銀行)小出

3. おもちゃ美術館事業部

4. 子育て支援部

【1】わはは・ひろば高松

【2】わはは・ひろば高松 / たかまつ子育て支援コーディネーター事業

【3】わはは・ひろば香西

【4】わはは・ひろば坂出

【5】さかいで子育て支援センター / センター業務

【6】さかいで子育て支援センター / まろっ子ひろば(子育て支援拠点業務)

【7】さかいで子育て支援センター / さかいで子育て支援コーディネーター業務

【8】さかいで子育て支援センター / 一時預かり業務

令和 7 年度事業報告 **総務部**

人員	実績	評価
常勤 2 名(兼務)	・認定 NPO としての 5 年更新審査通過 次期認定の有効期間 令和 7 年 10 月 6 日～令和 12 年 10 月 5 日 ・高松市賃金引上げ奨励金 500,000 円 補助金獲得	4

【今年度の目標】 総務部門の確立と、部門間連携が促進される仕組みづくり

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
①メンバーを確立し、業務分担をスタートさせる	1 わははネット HP に採用情報のページを開設。常時興味のある方がいれば、連絡を受け付けていることを明示。必要に応じて、求人説明会の機会を設け、面接～採用にあたってのミスマッチを減らすことに繋がった。 2 総務部の確立を目指しているが、他の業務との兼ね合いもあり、次年度も継続してあるべき姿を模索していく。	4
②認定 NPO 法人の認定更新	1 初の認定更新作業ということで、書類の整備等、一部苦労したところもあったが、今回の経験を次回以降に活かす形で、さらなる整備が進んでいる。	5
③情報共有の仕組みを整える	1 共有ツールである「LINEWORKS」「サイボウズ」の活用については、部門によって活用レベルに差がある現状。次年度は、情報ごとにルール決めでさらに進めたい。	3
④会議体や年間の必須イベントの整理と実施	1 運営者会議を継続実施。スタッフの、資料作成、報告スキル、部門間の連携も進んできている。 2 年間を通しての振り返り、報告会、面談等、軌道に乗りつつも、まだ不十分。会員の種別や案内については、認定更新のタイミングで確実なものとなってきた。	3
⑤全体連携を図るための研修計画	1 新人スタッフが入职した際の動画視聴で法人の歴史を学んだり、他の部門に訪問し現場を体験する研修については、確立しつつある。	3

【特筆すべき事項】

- ① 正会員、賛助会員とも、会員の種別に応じた必要な事務処理については、改めて認定更新の検査の中で、あるべき姿を確認することができた。次回の更新について、具体的に整備が進んでいる。
- ② LINEWORKS の NPO 版を活用することで、経費削減を図れないか検討を進めた。LINEWORKS アンバサダーに依頼し、移行を進めたが、結果データ保存容量等の課題が残り、現状のものを継続することを決定。
- ③ わははネット全体に対して、CANVA 活用研修を外部講師に依頼し実施した。次年度に向けては、NPO 版アカウントの利用ルールをまとめた上で、法人全体での活用を進める。
- ④ 形骸化していたルールブックの内容について、法人全体で確認をするプロセスをとった。改善提案等については、必要に応じたプロセスを経て、変更できるものについては、順次変更計画中。令和 8 年度総会時には、新しいものを提示できるスピード感で進める予定。
- ⑤ 退職金制度についても、法人の組織としての変化や、社会の変化に合わせて、変更の準備を進めた。令和 8 年度から新制度のスタートを計画。
- ⑥ 最低賃金の引き上げに対応し、10 月より基本給を 5,000 円引き上げ、パート時給を 50 円引き上げた。
- ⑦ 離職率 11.4%、有給休暇取得率 84%

事業推進部

事業費	人員	実績	評価
48,430,368 円	正 5(産休 1) パート 1	* 令和 7 年度新規事業 「香川県仕事と子育て両立体験事業」 「香川県女性デジタル人材育成事業」 ○行政からの委託事業 香川県 8 件、高松市 4 件、坂出市 1 件 ○自主事業 わははファミリーフェスティバル たかまつらっこ広告協賛	4.6

【目標】 担当事業をより深く理解し、課題意識を持って、関わり合いを大切にする

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
① 事業の背景への理解を深める	1. それぞれ担当している事業の仕様書を読み込み、その事業の背景を考えながら、研修やイベントの展開を促す業務を全うできた。 2. 実施した研修やイベントの開催報告は、作成後もれなく回覧し、担当事業以外の知識や理解を深めることができた。 3. SNS やニュース、社会課題により興味を持つようになり、気になったことについては、意見交換を行うなど、意識を広げることができた。	4.5
② 積極的に関わる	1. 今年度のファミリーフェスティバルでは、香川県の NPO 基金を申請し、防災フェスティバルを同時開催することができた。 2. これまでの関わりの中から、ご縁をいただき、1 月にはせとうち HR フォーラムにわははネットブースを出展し、これまで関わりがなかった企業や団体と接点を持つことができた。 3. 現在のスタッフが経験を積む中で、行政の職員や企業、講師の先生方ともスムーズなやりとりができるようになってきている。	5
③ 滞りない事業の運営	1. 1 年間のスケジュールの見通しが立てられるようになり、それぞれのスタッフが自身の担当している事業を滞りなく進行することができた。 2. 朝礼後のミーティングや定例ミーティングは可能な範囲で欠かさず実施し、お互いの進捗状況を確認することができた。 3. 自身の業務量に応じて、必要なときにはスタッフ間で声を掛け合い、助け合うことができた。	4.5

【特筆すべき事項等】

①-1.3 受託事業や自主事業について、その背景を考えながら運営することができたが、更なる発展のためには、育児当事者や保育者(支援員や放課後児童支援員なども含めて)、学生や企業など現場のリアルな声を聞き、今の社会情勢を知りながら、わははネットとして何ができるか探っていく必要があると感じた。

②-1.2 NPO 基金の申請やせとうち HR フォーラムへの出展など、めぐってきたチャンスを逃さず関わることはできたが、現在の事業推進部の人数や、経験値などから、受託事業と自主事業の運営のバランスを模索することもあった。

③-1 経験を積むことで、先の見通しを立てる力が身についてきているが、行政からの受託事業が多く、ペースを合わせて進める必要があるため、順序立てて業務をすることが難しい場面もあった。

③-2 担当している事業において、講師とのやり取りや研修の内容など、十分に確認が取れないこともあり、状況を憂慮することもあった。要所でのミーティングの必要性を感じた。

【1】行政からの受託事業

① 高松市 子育て支援総合情報発信事業(らっこサイト)

事業名	子育て支援総合情報発信事業「子育て支援総合情報サイト」		
事業概要	情報誌「子育てハンドブック『たかまつらっこ』」を基に、子育て家庭が必要とする各種子育て関連情報を集約・一元化し、効率的な情報を積極的に発信することにより、子育て支援の促進を図ることを目的とする。		
開始年度	R6 年度	R7 年度決算額	1,132 千円
事業実績	・「子育て支援総合情報サイト」の情報更新・運営・保守管理。 ・その他、事業を実施する上で必要と認められる業務を随時遂行。		
成果・課題	◎	【成果】令和7年度子育てハンドブックたかまつらっこを基に、情報の更新・修正等を随時行った。また、子育て支援拠点での月ごとのイベント掲載等、随時更新した。 【課題】サイトのデザインや構成がやや古い印象で、利用者からすると検索しづらい点が懸念される。また、イベント掲載については、毎月同じ団体からの依頼が多く、「お知らせ」欄においてあまり変化が感じられない点が課題である。	

②高松市 ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業(ひとり親冊子・サイト)

事業名	ひとり親家庭等子育て支援総合情報発信事業		
事業概要	ひとり親家庭等が必要とする各種子育て関連情報を集約・一元化し、効果的な情報を積極的に発信することにより、ひとり親家庭等の子育て支援の促進を図る。		
開始年度	H30 年度	R7 年度決算額	1,646 千円
事業実績	・ひとり親家庭向け情報誌の情報更新確認および冊子への反映業務 A5 版 40 ページ 3,000 部発行 ・冊子の改訂内容をサイトへ反映および新着情報更新 ・ひとり親メール相談 6 件の回答依頼、返信		
成果・課題	◎	昨年度から担当者が変更となったが、冊子の改訂作業を滞りなく進め、予定どおり発行することができた。また、サイト運営においては、市内のひとり親家庭に関するイベント情報を積極的に掲載するなど、より多くの家庭に情報が行き渡るよう努めた。 今後の課題としては、出生数や人口の減少に伴い、冊子の発行部数の縮小など発信媒体の変化が生じることが予想される。	

③香川県 地域子育て支援人材養成事業(子育て支援員・放課後)

事業名	地域子育て支援人材養成事業		
事業概要	地域の子育て支援に取り組む人材を養成する研修を実施、研修を修了した者を「子育て支援員」及び「放課後児童支援員」として認定することで、地域の子育てを支援する人材を養成するとともに、時代を担う子どもたちを安心して生み、健やかに育てることができる環境を整えることを目的とする。		
開始年度	H 27	R7 年度決算額	8,774 千円
事業実績	・子育て支援員研修全 8 コース 受講人数 239 名 ・放課後児童支援員認定資格研修(中讃会場 33 名・高松会場 67 名)受講人数 239 名		
成果・課題	◎	子育て支援員研修を通じて、子どもの成長や発達など基本姿勢をテキストや演習で学ぶことができ、受講者は改めて自身の業務を見直すよいきっかけとなった。演習では多世代で交流をもつことができ、受講者同士の意見交換から多様な支援のあり方にも気づくことができた。課題としては、会場後方まで使用した席配置は前方のモニターが見にくかった。	

④香川県 ライフデザイン事業(ライフデザイン)

事業名	ライフデザイン事業		
事業概要	県内の高校にキャリアコンサルタントを派遣し、出前講座を実施する。高校生が進学や就職といった目先の進路選択だけでなく、結婚・出産・子育てなど将来のライフイベントも含めて、自らの人生を総合的に考える機会を提供する。		
開始年度	R5 年度	R7 年度決算額	1,215 千円
事業実績	・県内 5 校、24 クラス、高校生総勢 794 名に向けて講座を実施 ・講座後にはアンケートを実施し、集計結果を子育て県かがわ情報発信サイト「colorful」に掲載		
成果・課題	◎ アンケートでは、受講者の 6 割以上がライフデザインの重要性を実感し、講座が考えるきっかけになったと回答した。約半数は結婚・出産・子育てへの前向きな意識が高まったと答え、リアルな情報が苦手意識の克服につながったことが示された。 一方で、現在は参加校が毎年限られており、事業の対象が固定化していることが課題として挙げられる。		

⑤高松市 乳幼児とのふれあい事業(ふれあい)

事業名	乳幼児とのふれあい事業		
事業概要	生徒が乳幼児や保護者と交流する機会を設け、命の尊さや親子の愛情を学び、コミュニケーションの活性化を図り、生徒の健全育成と次代の親づくりにつなげる。生徒が子育て家庭の相談先や居場所を知るきっかけとする。		
開始年度	平成 23 年度	R7 年度決算額	291 千円
事業実績	・勝賀中学校(3 年生 7 クラス)と下笠居中学校(2 年生 2 クラス)で開催 ・事前打ち合わせ後、ふれあい事業の事前授業・体験を実施 ・学校側へアンケート・事業の振り返りのお願いと中学生ボランティアの受入対応		
成果・課題	◎ 【成果】 親からの話や赤ちゃんとのふれあい、妊婦体験などを通して、妊娠・出産・子育ての大変さと命の尊さを実感する機会となった。体験的な学びにより、赤ちゃんへの関わり方や家族・地域で子育てを支える大切さへの理解が深まった。 【課題】ふれあい体験後のひろばボランティア申込みが少なかったため、全体説明だけでなく個別での紹介など、広報方法を工夫していきたい。		

⑥香川県 女性が輝くリーダー養成事業(リーダー)

事業名	女性が輝くリーダー養成事業		
事業概要	リーダーとして行動するための知識やスキルを習得し、責任を果たせる人材を育成することで、あらゆる分野における女性活躍の推進につなげることを目的とする。		
開始年度	R5 年度	R7 年度決算額	3,939 千円
事業実績	・6 回連続セミナーと、事前と事後のキャリアコンサルティングを実施し、30 名が受講、29 名が修了 ・香川の女性ネットワーク“おいり”の研修会・交流会を開催し、30 名が参加		
成果・課題	◎ 各セミナー後のアンケートでは、ほぼ全員から「とてもよかった」との評価が得られた。受講者は毎回新たなチャレンジに取り組み、最終回には自分らしいリーダー像を見出す姿が見られた点は大きな成果である。また、講師やゲストへのフォロー体制も良好であった。 課題としては、セミナー後の受講者の学びの継続性が挙げられる。主体的に悩みを共有し刺激を得られる場や、その情報発信の仕組みが求められている。また、県内企業数の規模を踏まえると、今後の受講申込数の減少も懸念される。		

⑦高松市 放課後児童支援員認定資格研修業務(高松放課後)

事業名	放課後児童支援員認定資格研修業務		
事業概要	「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」(平成 26 年厚生労働省令第 63 号)第 10 条第 3 項に基づき、放課後児童支援員として必要な知識及び技能等の習得とそれを実践する際の基本的な考え方や心得を認識してもらうことを目的とする。		
開始年度	R5	R7 年度決算額	1,801 千円
事業実績	受講人数 55 名		
成果・課題	◎ 年々、申込者は検証傾向にあるものの、研修はとても充実した内容であった。特に、研修日程ごとの席替えにより、より多くの受講者と交流することができ、お互いのクラブの取り組みや課題、アイデアを知る機会となり、とても満足度の高い研修となった。		

⑧香川県 女性が輝く職場づくり事業(メンター)

事業名	女性が輝く職場づくり事業		
事業概要	女性従業員からの職業生活上の相談等に助言・指導(メンタリング)を行うものをメンターとし、企業としてメンターを育成し、メンター制度を導入することにより、企業における女性の就業継続や人材育成をサポートし、将来の管理職への登用も視野に入れた職場での女性活躍を促進する。		
開始年度	R4 年度	R7 年度決算額	2,406 千円
事業実績	・22 社からの申込(メンター候補者 27 名)、3 回連続の研修を実施 ・導入研修は、候補者と同企業の経営者や人事労務担当者が 16 名参加(メンター候補者兼任含む)		
成果・課題	◎ 2・3 回目の研修後アンケートの理解度項目では、「よくわかった・大変よくわかった」と回答した割合が、2 回目は 95%、3 回目は 100%と非常に高い結果となった。講師による講義に加え、今年度の事例発表を行った 3 社の女性管理職からのエールは、悩みを抱えながら奮闘する受講者の背中を力強く押す内容となった。一方で、メンター制度への理解を深めるうえで重要となる第 1 回目研修への経営者および人事労務担当者の参加率が挙げられる。また、「女性が輝くリーダー養成事業」と同様に、県内企業数の規模を踏まえると、今後の受講申込数の減少も懸念される。		

⑨香川県 縁結び・子育て美容-eki 事業(美容-eki)

事業名	縁結び・子育て美容-eki 事業		
事業概要	「子育て県かがわ」の実現に向け、県内の美容院等や保険外交員が結婚支援・子育て支援の現状や制度を学び、利用者へ必要な機関の紹介や情報提供を行う取組みを実施している。これにより、結婚・子育てに関する不安の軽減と、地域全体で支援する機運を高めることを目的としている。		
開始年度	H27 年度	R7 年度決算額	990 千円
事業実績	・認定講習会を 3 回開催し、新規認定店舗を 7 店舗獲得した ・「明るい未来に備えるマネープラセミナー」を開催し、9 名が参加した ・「身だしなみ認定店舗」を県内に 5 店舗設置し、特別メニューの提供を行なった ・認定店舗の取材を 6 回実施し、公式HPやSNSで広く情報発信した ・香川県の結婚、子育て支援の情報掲載通信を 1 回発行し、既存認定店舗のフォローアップを実施		
成果・課題	◎ 新規認定店舗の確保が課題だが、複数回の実施やオンライン講習を活用することで、一定の成果を上げることができた。若年層対象の「明るい未来に備えるマネープランセミナー」は、結婚の価値観が多様化している世代へ将来設計においての要点を提供し、参加者も確保でき、新たな価値提案につながった。一方、アンケートの実施や「身だしなみ認定店舗」の対応については、認定店舗に通常業務と並行して進めてもらう必要があり、運営面での負担や課題を感じている。		

⑩香川県 かがわ子育てステーションパワーアップ事業(ステーション)

事業名	かがわ子育てステーションパワーアップ事業		
事業概要	かがわ子育てステーションの支援力向上と拠点同士の連携強化を目的に、支援者向けの研修・交流会を実施し、相談支援や情報提供など利用者ニーズに沿った対応力の向上とネットワーク構築を図る。また、子育て家庭を対象に子どもの想像力や好奇心を育むイベントを開催することで、拠点の利用促進につなげ、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを推進する。		
開始年度	R6 年度	R7 年度決算額	5,125 千円
事業実績	・研修会 全 5 回開催-第 1 回 82 名、第 2 回 44 名、第 3 回 45 名、第 4 回 35 名、第 5 回 20 名 ・イベント 全 6 回開催-9/7 開催 9 組 27 組、10/5 開催 9 組 24 名、10/19 開催 12 組 29 名、10/20 開催 12 組 24 名、12/5 開催、14 組 33 名 12/6 開催 14 組 31 名・アクリルアートパネル貸出 10 拠点		
成果・課題	◎	研修会では、先進的な事例やグラフィックレコーディングの活用により、新たな視点や学びを得られる機会となり、参加者からも継続を望む声が多く寄せられた。一方で、内容をより詳しく知りたいという意見や参加者減少、オンライン参加への対応などが課題として挙げられた。イベントやアクリルアートパネルの企画は、子育てステーションの利用促進や学びの機会につながったが、会場設備や備品の準備、パネルの重量など運営面での改善点も見られた。	

⑪香川県 仕事と子育て両立体験事業(両立)

事業名	仕事と子育て両立体験事業		
事業概要	大学生など若い世代にインターンシップの機会とあわせて、県内企業で働く子育て中の社員の家庭生活を体験するプログラムを提供する。働き方と子育ての両立を身近に感じてもらうことで、将来香川県で働くことへの希望を育み、結婚・出産・子育てに前向きな意識を高めることを目的とする。		
開始年度	R7 年度(初年度)	R7 年度決算額	5,872 千円
事業実績	・県内 5 企業 1 法人が家庭体験として協力、大学生 9 名(うち 1 名は 2 企業・家庭を体験)が参加 ・最終プログラム「報告会」には、一般参加者を含め 58 名が参加 ・1 法人・家庭において瀬戸内サニー(株)が動画を撮影、編集した動画は YouTube チャンネル「瀬戸内サニー【Setouchi Sunny】」で公開(10,229 回視聴:2026/3/12 時点)		
成果・課題	◎	参加した学生からは結婚や子育てに前向きになったという声が聞かれ、将来に向けて視野が広がった様子が見られた。また、報告会参加者へのアンケートでは 8 割以上が満足と回答し、事業の有効性が確認された。一方、学生募集では参加者が十分に集まらず苦労した経緯があり、今後、対象人数の増加を見据えて安定した集客につながる募集ルートの確保が課題となっている。	

⑫坂出市 子育てハンドブック改定事業(坂出ハンドブック)

事業名	子育てハンドブック改定事業		
事業概要	坂出市在住の子育て家庭が必要とする各種子育て関連情報を収集し、分散している情報を集約・一元化したうえで正確に発信することで、子育て家庭への支援をより効果的に進めることを目的とする。		
開始年度	R4 年度(3 年間隔)	R7 年度決算額	660 千円
事業実績	・坂出市在住の子育て家庭向け情報誌の情報更新確認および冊子への反映業務 データ納品 ・必要な情報に効率よくアクセスできるようインデックスや QR コードを追加した。		
成果・課題	◎	行政の要望を丁寧に聞き、確実に反映できるよう製作者と調整を進めた。また、可能な範囲で QR コードの掲載を提案、より良い冊子となるよう進めることができた。一方、改訂作業の初期段階において、法人内の坂出市拠点スタッフから新規制度や最新情報に関する意見を十分に収集できていれば、より効率的で正確な反映につながったと考えられ、今後の課題となる。	

⑬香川県 女性デジタル人材育成事業(DX)

事業名	女性デジタル人材育成事業		
事業概要	社会におけるデジタル化が加速する中、女性がデジタルスキルを習得することの必要性や優位性を理解するとともに、女性が社会活躍するために求められるスキルなどをロールモデルから学ぶことなどで女性のキャリア形成に向けた意識醸成を図ることを目的とする。		
開始年度	R7 年度	R7 年度決算額	500 千円
事業実績	・日時:令和7年12月23日(火)にかがわ国際会議場にて開催。79名が参加		
成果・課題	◎ 【成果】基調講演や事例紹介、パネルディスカッション、グループワークを通じて、DX や生成 AI の活用が身近な業務改善やキャリア形成に関わるものであることへの理解が深まった。また、日本 IBM と香川県の連携事例などを通じて地域における DX 推進の具体的なイメージが共有されるとともに、参加者同士の意見交換により DX との関わり方について理解を深める機会となった。 【課題】DX を推進していくためには、継続的な学習機会の確保や初心者にも分かりやすい情報提供など、デジタル分野への心理的ハードルを下げる取組が求められると感じた。また、テレワークの普及によるコミュニケーションの減少など働き方とのバランスへの配慮や、適切なデジタル活用を支える IT リテラシー教育の充実も今後の課題である。		

【2】自主事業

⑭子育て情報誌『おやこ DE わはは』特別号

事業名	子育て情報誌『おやこ DE わはは』特別号		
事業概要	地域に根ざした情報発信を続けてきた実績と信頼を活かし、企業の要望に応じて地域の子育て家庭が知りたい情報を中心に掲載し、特別号として発行・配布をする。		
開始年度	H11 年度	R7 年度決算額	1,441 千円
事業実績	・テーマ「子育て家庭のお金の教科書住まい編」(住宅金融支援機構)10月発行 13,000 部		
成果・課題	◎ 「おうちにかかるお金のこと」をテーマに、家づくりや住宅ローンの情報をわかりやすくまとめ、香川県の子育て支援やイベント情報も併せて紹介することで、子育て家庭が知りたい情報を誌面を通してしっかり届けることができた。		

⑮わははファミリーフェスティバル(ファミフェス)

事業名	第 13 回わははファミリーフェスティバル 2025		
事業概要	香川の子育て家庭と、子育て家庭を応援したい企業団体を結ぶ場所を提供し、地域全体で子育てを支える環境づくりを推進する。		
開始年度	H24 年度	R7 年度決算額	4,737 千円
事業実績	・13 回目の開催、約 5,000 人の子育て家庭が来場 ・NPO 基金を活用しながら「防災フェスティバル」を同時開催 ・52 企業 58 ブース、10 団体 11 ブース、ステージ 6 枠、ふれあい PR4 枠の協賛実績		
成果・課題	○ 本事業では、初めてNPO基金の承認を受け、香川大学の高橋先生や機動隊等との調整を重ね、大きなトラブルもなく無事に「防災フェスティバル」を終えることができた。一方で、当日の来場者数については、近年の急激な少子化の影響を本イベントでも肌で感じる結果となった。出展社アンケートでは、大音量の和太鼓ステージに関する意見が多く寄せられ、評価は二分された。今後は、本イベントのブランド力向上と来場者数の増加に向けて、わははネット全体でも取り組んでいきたい。		

⑩香川県 子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業(らっこ広告)

事業名	子育てハンドブック「たかまつらっこ」協働発行事業		
事業概要	高松市と連携して発行している「子育てハンドブック」。母子手帳の交付時や市の窓口で市内の子育て家庭に配布され、妊娠期から子育て期までに役立つ支援制度、地域の最新施設情報、保育サービスなどと併せて、協賛企業・団体の広告も掲載し、子育て家庭の不安や負担を軽減するとともに、地域とのつながりを生み出すきっかけづくりにも貢献している。企業・団体からの協賛広告費をもとに発行しているため、誌面の 20%以内での広告募集の実施や情報更新などを行なう。		
開始年度	R2 年度	R7 年度決算額	6,508 千円
事業実績	・令和 8 年度版高松市子育てハンドブック「たかまつらっこ」令和 8 年 5 月 1 日発行 10,000 部 広告協賛達成率 95.7%(広告営業スタート 令和 7 年 12 月～)		
成果・課題	◎	継続的な協賛につなげるため、広告主企業・団体との関係構築を進め、代理店とも連携して協賛募集の実施を行なった。また新規協賛の獲得に向けて、別事業でも積極的に情報発信を行い、常に機会を捉えられるよう取り組んだ。	

⑪香川銀行育休者ミーティング(香川銀行)

事業名	香川銀行育休者ミーティング		
事業概要	3 カ月に 1 回のペースで、香川銀行従業員組合より依頼を受けて、育休中の行員スタッフに対して、託児をつけて、育休復帰に向けてや、育休中の行員同士の交流を目的にセミナーを実施		
開始年度	平成 27 年 3 月～	R7 年度決算額	528 千円
事業実績	6/18、9/2、12/15、3/2 の計 4 回の実施。サンゴクエスト、子ども防災、育休復帰に向けて、体験ワークショップを入れつつ、子育てや育休復帰に向けての準備について考えたり、行員同士の情報交換でより復帰後のイメージをもつことができるように組み立てを工夫した。託児のサポートに事業推進部のスタッフも入りながら、部門として関わっている。		
成果・課題	◎	参加者が、1 人目育休～3 人目育休者と幅が広く、この研修にも複数回出てきている方も増えていることから、重複にならないような内容の工夫を検討するとともに、両立の心構えの部分は、しっかりと伝えていきたいと感じている。	

讃岐おもちゃ美術館事業部

事業費	人員	目標値	実績(目標達成率)	評価
入館料収入 35,822,699 円	週 5 3	① 入館者数	①43,888 人(97.5%)	4
寄付金収入 1,801,300 円	週 4 2	② 有料入館者数	②38,500 人(99.2%)	
外部コラボ収入 634,970 円	週 3 1	③ 団体利用数	③74 団体	
	週 2 3		うちリピート 30 団体	

【今年度の目標】 笑顔をつなぐ出会いとワクワクする体験を創り出す

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他	評価
①すべての子どもたちの笑顔を創り出す	1. ワークショップの充実 2. 団体利用の対応強化 3. 障がいのあるなしに関わらず等しく対応ができる	5
②おもちゃ美術館の魅力を広げる	1. 部門や場所を超えて、讃岐おもちゃ美術館を知る機会を提供 2. SNS やメディア、プレスリリースを通して発信を続ける 3. 入館者、収入状況について、月 1 回全体周知	4
③おもちゃ学芸員の活躍と活性化	1. 交流会実施(感謝祭・全国おもちゃ学芸員交流会・同期会(新規)) 2. 遊びや、伝統工芸について伝える技術の向上のための機会を提供 3. 活躍の場づくり	5
④スタッフ自ら輝けるように	1. 3か月ごとの全体研修の時間の活用 2. 団体アンケートのフィードバックやイベント終了後の振り返りから、ニーズを掴み次に活かす 3. 自己研鑽によるおもちゃの知識や、伝える技術の向上を図る	4

【特筆すべき事項等】

- ①-1月替わりの平日 WS を 6 月から常設。月 30~40 名ほどの参加者が利用。手軽に参加できる内容が人気。年間を通して準備、告知ができるよう計画している。
- ①-2ワークショップ付団体利用プログラムを 2 件開催。修学旅行利用: 県外 1 件/海外 1 件。高校生の利用者増加。
- ①-3医療的ケア児無料貸切 在宅療養ネットワークコラボ年 1 回達成。社会的貢献活動貸切開館(移住者交流会・高松ロータリー・ツインズ等)年 1 回達成。
- ②-1 ひろばへのおもちゃ貸し出し増加。横展開で魅力を伝える場を増やす。
- ②-2 ・複数のスタッフでインスタ投稿ができるようノウハウを共有した。・チラシ・パンフレットの配布先増加。
(長寿大学、コミセン、駅、空港、美術館など)・出張おもちゃ美術館 年 2 回実施。(ファミフェス・公測公園)
- ③-1感謝祭、全国おもちゃ学芸員交流会、フォローアップ研修、若葉研修、遠足などおもちゃ学芸員向けイベント開催。
- ③-2朝礼にてスタッフによる「一ロクチャー」(おもちゃの遊び方、お客様への接し方、館内案内など)を実施。また「あそびのむしオンライン」の学び共有。おもちゃ学芸員のスキルアップへ繋がった。
- ③-3新しく「いとこの部」、「折り紙部」が創部。おもちゃ学芸員の部員も積極的に部活動に参加し、意欲が高まった。また、「いとこの部」と「投扇興部」は継続して手形づくりワークショップや、館内遊びのイベントを開催。部活動はおもちゃ学芸員のスキルアップ、交流の場となっている。
- ④-1 スタッフそれぞれがグッド・トイの各おもちゃの担当となり、遊び方を調べた。スタッフ間、おもちゃ学芸員、来館者への伝え方を考えることができた。
- ④-2 スタッフもおもちゃ学芸員養成講座に参加することで、おもちゃ学芸員目線での気づきがあり、目標を見つけることができた。

【1】 わはは・ひろば高松(高松ひろば)

事業費	人員	項目	実績	評価
拠点事業費 9,023,000 円	正 1 P2	① 総利用者数 ② 登録組数 ③ 新規組数 ④ マタニティ登録組数	① 5604 人 ② 418 組 ③ 290 組 ④ 34 組	4

評価理由：地域の居場所づくりを大切にしながら、多様な親子が安心して集える場づくりを行えたから。

【今年度の目標】 多様な人との出会いや交流を生み出すひろばづくり

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①地域とのつながりづくり (重層的支援体制整備事業)	1. 地域の幼稚園2園で、0. 1 歳児の居場所づくりを行い、子育て家庭と地域の高齢者が繋がる機会をもった。 2. 讃岐おもちゃ美術館へ訪問し、ひろばの利用を進めた。 3. 市内の中学校2校でふれあい授業参加。 4. 市内2校の職場体験受入れ、イベントの開催 予約満員
②妊娠期からの利用の促進	1. 妊娠期の方向け講座(年 6 回)では、「ねんねちゃんの会」と合流し、先輩ママと交流する機会を設けた。新規 マタニティ登録 40 組 2. 産休・育休の方向けの講座の実施 希望の方への個別面談の実施
③イベントの充実	1 早期利用につなげるため、マタニティ講座で産後2か月まで撮影できるチケットをは配布。低月齢からの利用につながった。 2. 子育て座談会・個別相談日では CN と連携し、早期に相談につなげることができた。
④多様な親子の交流の促進	1 外国人親子の日の実施。当事者の方への聞き取りを行い、内容の見直し次年度の計画をたてた。

【特筆すべき事項等】

- ①-1 ボランティア10名とひろば協働で、夏祭りをを行い地域の方との交流を促した。
- ①-4 職場体験の受入れをし、中学生主体のイベントを行った。利用者からは将来の自分の子どもの成長が楽しみになったと感想が聞けた。
- ②-1 プレママ講座に参加した妊婦さんと、生後まもない赤ちゃんを持つ保護者の方との交流の時間を設けたことで、妊婦さんにとっては産後すぐの生活を具体的にイメージするきっかけとなり、先輩ママにとっても出産前の気持ちを思い出す良い機会となった。また、互いに交流することで、つながりを深めることにもつながった。
- ④-1 外国人ひろばを定期的開催し、孤立防止に努めた結果、外国籍の親子 10 組の登録につながった。
また、ボランティアとともに香川大学教育学部の山下教授やアイパル香川を訪問し、ひろばの活動を周知するとともに、ニーズの把握に努めるなど、関係機関との連携を図った。

【2】 わはは・ひろば高松（たかまつ地域子育て支援コーディネーター）

事業費	人員	実績	前年比	評価
利用者支援事業費 9,427,000円	正0 P3	①相談件数(継続)85件 ②情報提供(相談)885件	①88件 97% ②701件 126%	4

評価理由:体制変更があり、後期予定していたイベントを延期し、ケースふり返り、施設訪問、研修などスタッフのスキルアップに力を入れたため

【今年度の目標】 予防的視点を持ち地域子育て相談機関としての役割を担う

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①情報提供	1.妊娠中、子育て中の方に新しい制度や育児サービス、イベント告知、報告をSNS・HPに掲載した。 2.幼稚園・保育所座談会を開催し、情報提供を行った。イベント満足度 100%
②相談	1.定期訪問先、新規訪問先との関係作りを大切に、CNにつなげてもらえた。 2.相談の振り返りやケースについて話し合い必要な地域資源への理解を深めた。 3.休日相談日を実施
③広報	1.地域子育て相談機関として認知されるよう定期的に SNS・HP に掲載した。 2.ひろば掲示板に月1回程度テーマを決めて記事を掲載。
④他機関連携 (地域子育て相談機関として)	1.他機関と顔の見える関係をより深めるため、施設訪問を行いイベント連携・ケース連携に努めた。 2. マタニティイベント 13 回(65 組 83 名参加)定期開催することで早期から予防的に関わり、必要に応じてケース連携を行った。 3.シングル座談会実施
⑤資源開発	1.利用者のニーズに沿った新規イベント、病児保育説明会実施。満足度 100%
⑥スタッフの連携と スキルアップ	1.定期的にミーティングを開催、新たな制度、情報について共有し学ぶ機会を作った。業務内容の確認、困りごとの解消を行った。 2.日々の振り返りなどで高松・香西ひろばスタッフとケースについて話し、チームワークを高めるよう努めた。坂出 CN と横ぐしを通すための取り組みも進めた。 3.ひろば内部、外部の研修に積極的に参加し、スキルアップに努めた。

【特筆すべき事項等】

- ②-1 高松エリアスタッフと高松聖母幼稚園、勝賀エリアコミセン訪問。CN の周知・情報提供を行い相談機会を増やした。
- ②-2 アセスメント力、伴走支援強化が課題。
- ②-3 夫婦での相談、平日利用しにくい保育所入所中の方の相談につながった。
- ③-2 新規登録 CN 認知度 58% 幼保以外のあらゆる相談項目平均 5%。
- ⑤相談から見えてくる地域の支援の隙間を整理し、必要な地域資源を検討するのが今後の課題。
- ⑥-2 坂出 CN とケースふり返りやオンライン勉強会(4 回) 合同研修実施。生活の困りごとを抱える方向けのイベント定期開催に向けて坂出 CN イベントに参加して学んだ。(6回)

【3】 わはは・ひろば香西

事業費	人員	項目	実績	評価
拠点事業費 9,077,000 円	正 1 P5	①総利用者数	①4959 人	4
重層的支援体制整備事業費 1,592,000 円	(育休 1)	②登録組数	②327 組	
		③新規組数	③211 組	
		④地域イベント参加者数	④829 人	

評価理由:新しく地域への開拓や広報を広げたことで、地域イベントの参加者数は昨年の 427 人から約 2 倍近い数になっていることから、周知が広くできていると感じる。さらに幅広い世代の参加を目指したい。

【今年度の目標】 勝賀エリアのすべての子育て家庭にひろばを知ってもらう

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①妊娠期、低月齢からの利用促進	1. 妊娠期の利用促進を進めた(新規 マタニティ登録 24 組) 2. フリーマーケットをコミセンにて開催(218 人利用) 3. マンスリーフォト週間を開催 4. 大人のリフレッシュタイム開催 5. 赤ちゃん向け広報を行う(SNS にて月 2 回以上)
②地域の子育て家庭へ広報	1. ひろばを卒業した方へ向けた同窓会開催(22 人利用) 2. ひろばポスター、ボランティアポスター掲示依頼(10 か所) 3. 地域のイベントへ参加(文化祭出品) 4. 学生ボランティア受け入れ(12 人参加)
③地域とのつながりを広げる(重層的支援体制整備事業)	1. 地域の情報をひろばに掲示する 2. 子育てサークル等、地域への訪問(6 か所) 3. 多世代交流イベントを開催(2 回)
④スタッフの連携	1. ホワイトボードを使って朝礼を行う 2. 朝礼、終礼にて各スタッフの業務進行状況を毎日確認する 3. 高松エリアでミーティングや地域活動を行う

【特筆すべき事項等】

①-1 わははマタニティイベントを CN と合同で開催した結果、多くの初産婦の登録につながった。

また、出産後に再度利用した親子もあり、「産前に利用していたことで来所しやすかった」との感想が寄せられるなど、継続利用につながる効果が見られた。

①-2 多くの利用があった一方で、十分に安心・安全な開催環境とは言えない面があったため、誰もが利用しやすいものとするための改善が必要である。

①-4 リフレッシュイベントを 7 回開催。新規利用の拡大には至らなかったが、利用者同士の交流促進につながり、讃岐おもちゃ美術館の周知や地域の特産品を通じて地域を身近に感じてもらう機会となった。

②-4 学生ボランティア募集のポスターを 4 つの学校へ掲示依頼を行った。

③-1 利用者が地域の活動を知る機会につながったほか、利用者同士の交流のきっかけづくりにもなった。

③-2 ふれあいセンター勝賀で行われている 4 か月児相談横で出張ひろばを開催。低月齢さんから交流できる機会を作り、ひろばの利用を促すと共に地域の交流の場をつくる。

④-2 スタッフ間で相互に確認を行うことで業務の進捗状況を共有でき、業務の効率化および時間短縮につながった。また、業務の抜け漏れ防止や急な欠勤にも対応できる体制を整えることができた。

④-3 高松エリアにおいてシフト調整や地域活動を合同で実施することで、スタッフそれぞれの強みを共有する機会となり、新たな気づきや刺激につながっている。また、エリア全体で相互に補完できる体制が整いつつあり、欠勤時の対応が円滑になるなど、休暇の調整がしやすい環境づくりにもつながっている。

【4】 わはは・ひろば坂出

事業費	人員	項目	実績	評価
拠点事業費 11,919,000 円	正 2 P3	①総利用者数 ②登録組数 ③新規組数	①4553 人 ②2163 組 ③132 組	5

開館時間延長、地域支援拡大など活動を広げ、地域とのつながりが広がった。新しい仲間を迎えてチームワークを構築し、共に考え新しい取り組みを進めていった。

【今年度の目標】 新しいつながりをつくる。

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①赤ちゃん期からの利用の促進	1. 妊婦向けチラシ作成。パパママ教室、妊婦面談時に配布。 2. 妊娠期～低月齢時期向け SNS 発信実施。(月 1 回以上) 3. 妊娠時面談後ひろば見学案内実施。面談後ひろば利用 23 組 4. プレママ＆赤ちゃんひろば開催。(月 3 回/計.36 回) 5. 6 月より 6 時間開館開始。前年より利用者数約 15%増加。
②利用者同士のつながりづくり	1. フリマ年 2 回開催。利用者ボランティア計 18 組登録。交流会 2 回開催。 2. お楽しみタイム開催(年 12 回)おもちゃ美術館のおもちゃ貸し出し利用。
③地域とのつながりを広げる	1. 商店街土曜デーに利用者と参加。夏祭り夜間開館 17 組 51 人利用。 2. 地域の施設、ボランティアとの連携イベント開催。新規 4 回。計 93 回 3. 学生ボランティア募集実施。参加者が集まらず、交流はできなかった。 4. 川津地域にて出張ひろば開催(10 月～3 月)計 6 回 のべ 54 組参加 近隣施設等にうちわを配布し交流する。他部署のイベント参加 6 回。
④スタッフの連携	1. スタッフノート、ファイルを活用。業務の共有、報告を行った。 2. 外部研修参加計 21 回(全スタッフ 3 回以上受講)
⑤坂出エリアの連携	1. エリアミーティング(月 1 回)開催。 2. まろっ子ひろばと連携してイベント実施。年 5 回。 3. 交換研修の実施(リーダー月 2 回、スタッフ交代で月 2 回)

【特筆すべき事項等】

- ①-3 妊娠期面談後にひろばを案内し、出産後の早期のひろば利用につながるようにかわった。利用者とおもちゃを作り、歓迎を伝えた。面談参加者のひろば利用が 23 組あり、市内在住の 0 歳児登録の 37%であった。
- ①-4 プレママ＆赤ちゃんひろばを妊婦面談開催と同じ日に行い、ひろば内で交流の機会となった。
- ①-5 開館時間が延長したことで、午後の利用の幅が広がったと利用者の声があった。
- ②-1 フリマ開催時には、地域からの商品持ち込み、新規の親子や祖父母の利用があり、ひろばの周知のきっかけとなった。ボランティア説明会や交流会を通して参加者同士の交流が広がった。(登録 19 組 交流会参加 13 組 のべ活動 36 回)
- ③-2 新たに地域の坂出市社会福祉協議会、ハローワーク丸亀、老人保健施設と連携してイベントを実施した。(計 4 回)
- ③-4 川津地域にて出張ひろばを開催(全 6 回)。準備期間を十分にとり、地域の方への事業説明や協力依頼、活動場所や実施内容を検討した。地域の方とのつながりづくりを坂出市社協の協力を得て、連携を深めた。
- ⑤-1 月 1 回エリアミーティングを行い、お互いの情報共有などを行った。利用者支援や一時預かりの最新情報を得られる貴重な機会となった。合同で研修を行い、スタッフ同士の交流と相互理解の機会を持った(年 2 回)

【5】 さかいで子育て支援センター(センター業務)

事業費	人員	項目	実績	評価
センター管理事業費 6,236,000 円 フェスティバル事業費 300,000 円	正 2	①総利用者数 ②登録組数 ③新規組数 ④日祝利用者数	①14,900 人 ②497 組 ③246 組 ④2,919 人 フェスティバル①64 組 211 人 フェスティバル②24 組 47 人	4

評価理由: 自主事業・広報物など概ね計画通り実施したが、まろっ子文庫目標数値が未達であることおよびプロポーザルが延長されたため

【今年度の目標】安定した館の運営と幅広い層(妊娠期～学童期)の利用者増加を目指す

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
① 自主事業	1.リサイクルデー年 2 回(5、11 月)開催。妊娠中のかたの利用を促進するため、日程をパパママ学級開催日と重複するよう設定した。 2.妊娠期対象のフェスティバル(7 月)、子育て世帯対象のフェスティバル開催(11 月)。 3.学童期向け図書貸し出し「まろっ子文庫ジュニア」年間利用者数 187 名(目標利用者数 200 人)。
② 坂出エリアの連携	1. LINE WORKS のスケジュール機能によりスタッフ交換日、妊娠8か月面談日などをスタッフ間で共有した。 2. 坂出市危機管理課・坂出警察署の出前講座の開催。
③ 広報の充実による利用者増	1.HP・SNS に館の情報を月に 2 回以上掲載。 2.毎月地域の回覧板を発行した(発行部数185部/月)。 3.市広報誌に毎月イベントの告知を掲載した。 4.利用申請書、利用規約を外国人向けのものを作成した。
④ 施設管理	1.消耗品の消費ペースを把握し、計画的に購入した。 2.毎日の館内清掃、敷地及び近隣との隣接箇所の清掃・美化、閉館後のおもちゃの消毒、清拭などの衛生管理を行った。 3.窓、エアコンフィルターなど館内大掃除を年 2 回行った。
⑤ 令和 8 年度指定管理受託のためのプロポーザルの準備	1.前回プロポーザルの関係資料を精読し、申請書のたたき台を作成した。 ⇒坂出市の事情により延期となった

【特筆すべき事項等】

- ①-2 子育て世帯対象のフェスティバルでは、昨年のアンケートを参考に、フォトブースを新しく設置した。ブースの立案・作成にあたっては全面的にサポーターズの協力を仰いだ。
- ①-3 昨年度末に「サステナブックプロジェクト」により高学年向けの図書を約 140 冊増冊した。SNS・地域の回覧板等により夏季休暇・冬期休暇期間中にそれらの図書をアピールし、利用を促した。
- ③-2 地域の回覧板に移動販売のスケジュールをこまめに掲載し、地域のかたの利用を促した。また、誌面にて新しいスタッフ 3 名の紹介も行った
- ③-4 利用申請書・利用規約を英語および平易な日本語のものを作成した(新規登録組数 246 組のうち外国人の登録は5組、そのすべてが坂出市在住)。
- ④-1 特にコロナ助成金により大量購入した消耗品(衛生用品)について、消費する時期を考慮し計画的に購入した。
- ④-2 屋外ひろばにセアカゴケグモが発見されたため、業者による駆除およびスタッフによる定期的な消毒を行った。また、浄化槽装置、防犯カメラの故障等イレギュラーな事態に対応した。

【6】 さかいで子育て支援センター / まろっ子ひろば(子育て支援拠点業務)

事業費	人員	項目	実績	評価
地域子育て支援拠点事業費 8,575,000 円	正 1 P3	①総利用者数	①8,489 人	4.4

評価理由: 妊娠期からの早期利用を促進するための周知や赤ちゃん向けイベントの充実により、親子が参加しやすい環境づくりができた。さらに、サポーターズや学生ボランティア、多世代との交流機会を設けることで、利用者同士のつながりや地域との関わりが広がった。エリアでの連携やスタッフ研修も継続的にを行い、支援体制の強化につながった。

【今年度の目標】 妊娠期からの切れ目ない利用につながるひろば

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①早期利用の促進	1. パパママ教室・妊婦等包括相談支援事業にてひろばの周知を行った。 2. SNS にて、妊娠期・低月齢からの利用促進をテーマにした投稿を月 2 回行った。
②赤ちゃん向けイベントの充実	1. 赤ちゃん向けイベントを 32 回開催し、1,018 人参加。 2. アンケートを実施し、子育て家庭のニーズを把握しイベントに反映した。
③様々な人と関われる機会をつくる	1. まろっ子サポーターズがイベント参加する機会を作った。(10 回 35 人) 2. 学生ボランティアと親子が交流できる機会をつくった。(8 人) 3. 多世代交流イベントを開催。(年 1 回)
④スタッフの連携	1. 毎週ひろばスタッフミーティングを実施し、業務の進捗状況確認・共有を行った。 2. スタッフのスキルアップのため外部研修参加計 12 回。
⑤坂出エリアの連携	1. 毎月 1 回エリア全体ミーティングを行い、エリアスタッフが情報共有や交流できる場をつくった。 2. 親子の参加の機会を増やすため、エリアで連携してイベントを計画・企画した。 拠点以外でもイベントを開催することで、地域の施設を知り、ひろば以外でも地域の親子と交流する機会となった。

【特筆すべき事項等】

- ①-1 妊娠等包括相談支援事業の面談後、ひろばの案内を行った。出産や産後の心配ごとを少しでも減らし、産後の生活のイメージを持ってもらえるよう、スタッフだけでなく、他の利用者とも交流する機会をつくった。
- ②-1 赤ちゃん家庭、先輩ママ、専門家など、様々な人と交流できる機会をつくった。また、プレママ＆赤ちゃんひろばを月 2 回行っていたところ、9 月からは月 3 回行い参加できる場を増やした。
- ②-2 アンケートにて子育て家庭のニーズを聞き、7 月から月 1 回ハイハイレースを赤ちゃんひろばにて開催する。子どもの成長を感じられるイベントとなっており、継続的な参加も多い。低月齢の赤ちゃんも応援として参加することで、発達の見通しを持つことができ、参加できることを楽しみに感じているとの声もある。また、父親や祖父母など家族での参加も見られ、自然と多世代の交流も生まれた。
- ③-1 ひろばの中で気になることを気軽に聞ける、頼れる存在を増やすことを目的とし、赤ちゃんひろばに先輩ママとしてまろっ子サポーターズが参加。困りごとや質問に答えたり交流したりすることで、つながりが出来ただけでなく、サポーターズにとっても誰かの役に立ったと感じることができた。その後ひろばで会った時も関わる姿が見られている。
- ③-3 地域の農園へ出向き、地域の特産品について知り、体験を通して交流することができた。また、ママだけでなく家族でひろばを利用してもらえるように、ファミリーデーや祖父母デーを開催し、利用しやすいきっかけをつくった。祖父母デーでは、他の祖父母との交流や、他の子どもと関わる姿も見られ、多世代の交流が生れていた。
- ⑤-1 坂出ひろばと週に 1 回のスタッフ交換研修を実施。また、坂出エリア研修としてコミュニケーション研修を 2 回行い、スタッフ同士のことをよく知り、エリアとしての意識がより強くなる時間となった。
- ⑤-2 10 月から坂出ひろばと合同で「わははひろば in かわつ」を月 1 回開催。ひろば利用者だけでなく、保健師からの紹介での参加もあり、認知もひろがってきている。来年度も継続して行う予定である。

【7】 さかいで子育て支援センター / さかいで子育て支援コーディネーター業務

事業費	人員	項目	実績	評価
利用者支援事業事業費 7,782,000 円	正 1 P1	相談件数 ①継続件数 ②情報提供	①282 件 ②230 件	4

評価理由:計画に応じて事業を進められたが、新規事業もあり拠点での相談時間を担保することが難しかった

【目標】妊娠期からの早期支援と拠点利用につなげる

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
① 妊娠期からの情報提供	1. 妊娠8カ月面談・パパママ教室時にひろば利用について説明、産後の新生児期から利用できる講座、イベントの紹介を行った。0～5 か月での早期登録は38%から 53%へ増加しており、予防的な関わりは前進している。効果測定:坂出市0歳児登録数:152 人(坂出市出生数約 7 割)
② 既存イベントの見直し	1. 講座実施の際には利用者同士が繋がりをもてるワークを講師に組み込んでもらうようにし横の連携の強化を図った。 2. 年間を通して定期的の実施することができなかった。
③ 他機関連携	1. 学童期を見据え、年間を通じて個別相談会を実施。 気になった時に相談できる切れ目ない支援の仕組みを整えることができた。教えて専門家講座のフォローの場としても有効に機能した。予約実績:4 組/6 組
④ スタッフ連携	1. 定期的なミーティング・ケース会の実施 2. 高松利用者支援職員との定期的な研修会を実施し横の連携が進んだ

【特筆すべき事項等】

③「教えて専門家講座」と個別相談を連動させることで、学びで終わらせず具体的な行動や相談支援へと発展させる流れを構築できた。

事業費	人員	項目	実績	評価
新 妊娠等包括相談支援事業 1,613,000 円	常勤 1 P1 委託 2	①面談実施 ②父・その他同席 ③外国籍家庭	①90.4 % ②29.3 % ③5.3 %	5

評価理由:入院や外国籍のかたの帰国などの理由により未実施があるがほぼ全妊婦と接点を持つことができた。

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①予約システム	1. LINE 予約システムの構築 2. 予約システムの運用
②面談実施	1. 面談マニュアルを作成し実施。 2. ケースに応じ、保健師同席の面談を実施
③面談記録	1. 助産師・利用者支援と項目を分けて記録作成 2. 継続や「気になる点などは振り返り時に分かりやすいように色を付け、支援の必要性が分かりやすくした。
④連絡会	1. 月 1 回実施。面談者の状況共有を細やかに行うことができ、支援内容の共有や今後の支援の必要性など都度協議することができた。

【特筆すべき事項等】

- ・ 外国人家庭や複合的課題を抱える家庭とも妊娠期に接点を持つことができ、出産前から関係機関との情報共有を行う基盤づくりにつながった。
- ・ 気になる家庭 2-3 割。保健師への産後うつ・孤立予防的支援へ早期につなぐことができた。

【8】 さかいで子育て支援センター / 一時預かり業務

事業費	人員	項目	実績	評価
拠点事業費 3,107,000 円	P3	①総利用者数 ②新規組数 ③利用料総額	①946 ②65 ③963,600	4

評価理由: スタッフ体制が整ったことで、利用者数増加。また、研修を受ける機会をもつことができ、個人のスキルアップにつながり、保育や保護者対応に活かされることができた。しかし、保育内容の充実や館としての連携が課題であることから。

【今年度の目標】 安心して預けられる保育を行う

目標達成のための計画	目標指標に対する結果 他
①保育内容	- アンケートの「子どもの成長を感じたか」に対して、「感じる事ができた」との回答が 96/90%以上と目標達成した。 - 子どもの発達や保護者対応についての研修を受けた。(4 回) - 不適切保育となっていないか、毎月セルフチェックを行い確認した。
②保護者対応	個人記録を利用し複写をお渡しすることで、受け入れ時の聞き取り内容と預かり中の様子を保護者と共有した。
③利用人数	- スタッフ体制を整え、預かり枠を増加した。(約 80 枠→約 100 枠) - まろっ子ひろば・坂出ひろばにて、一時預かり説明会を行った。(計 7 回) - HP を更新できていない月もあるが、Instagram を毎日投稿し預かりの様子を周知した。
④スタッフ連携	- まろっ子 MTG にスタッフが参加できる体制を整え、各部署との共有を行った。 - 朝礼にて、日々の情報共有を行った。

【特筆すべき事項等】

①-2 子どもの発達・保護者対応・初任者研修・ひろば全協交流会(拠点ならではの一時預かり)・コミュニケーション研修を受けることができ、日々の受け入れ受け渡し時の対応に活かされる良い機会となった。

②-1 保護者からの聞き取りを正確に共有できるよう、個人記録の見直しを行った。個人記録を利用しながら、丁寧に保護者対応をおこなった。送迎時の聞き取り内容や一時預かりでの様子を記入し、保護者に写しを渡すことで保育士と情報を共有できるようにした。情報の差異を防ぐことが安心にもつながったと感じる。また、初めての預かり時・最後の預かり時・誕生月には写真入りカードをプレゼントした。アンケートの「安心して預けられているか」に対して、「はい」との回答が 100%であった。また、登録時に保護者が理解しやすいよう、しおりの見直しも行った。

③-1 スタッフ体制を整え、枠数を増やした。しかし、後期は利用人数が増えたことで、利用したい日に利用できないことも多数あった。

③-2 新規登録数を増やすため、まろっ子ひろばだけでなく、坂出ひろばでも一時預かり説明会を行った。一時預かりについて認知していても、なかなか登録に行く機会をもてなかったのが良かったとの声もあった。また、普段は坂出ひろばのみ利用していた方のまろっ子ひろばの利用につながった。

④-1 業務の進捗状況の確認や議題に向けて、各部署スタッフが集まれるよう体制を整えた。自部署だけでなく、館全体で話し合える機会をもてることで業務を共有することができた。

④-2 朝礼時に、前回の預かり時の様子・デビュー・ラスト・アレルギーの有無など子どもの情報と保護者の様子をスタッフに共有することで、他部署スタッフと連携し、安心・安全な保育ができる体制をとることができた。預かりの空き時間を活用し、ひろば業務や事務作業、環境整備などのサポートを行うことで、他の業務の状況理解へつながった。